

MIT 交換留学報告書

工学部マテリアル工学科 4 年
大愛景子

概要

プログラム : UTokyo-MIT Exchange Program
派遣先大学 : Massachusetts Institute of Technology (MIT)
所属学科 : Department of Materials Science and Technology
派遣期間 : 2017 年 9 月～12 月 (1 学期間)



Fig. 1 Great Dome of MIT

留学準備

・ 動機

これまで留学に特に興味を持っていた訳ではなかったが、MIT との交換留学があるとの案内を学科の授業後に頂き、興味を持った。世界最高峰と言われている大学での環境に身を投じてみたいと思い、応募を決めた。

・ 履修

渡航前からシラバスはオンラインで公開されている。シラバス内の花のマークは春学期、雪のマークは秋学期を表すので注意。このプログラムは秋学期なので春学期用の講義は受講できない。

・ 費用

支出

内容	金額(円)
寮	525116
食事プラン	286294
往復航空券	227310
MIT側保険代	142732
指定ワクチン接種等	77547
ビザ関連	38200
東大側保険代	37130
貯金残高証明書	510
合計	1334839

奨学金

内容	金額(円)
4ヶ月分生活費	320000
往復航空券	227310
合計	547310

国際交流課に案内をいただき、生活費は JASSO から、航空券はサンディスクから奨学金をいただいた。他の奨学金も探したが、大抵は募集締め切りが過ぎており、申し込むことができなかった。交換留学の応募時点で同時に奨学金にも応募しておくことを勧める。

・寮の選択

キャンパス内にある寮に住むことができ、渡航前に選択し応募する。人気の寮を選んでしまったのか、今回留学した私たち 3 人は全員希望とは異なる寮に配属された。第 5 希望あたりまで記入できるはずなので、できるだけ多く書いておくと良い。

Maseeh Hall

最も新しい寮で、煉瓦造りのきれいな外見である。MIT のメインキャンパスから最も近い。ダイニングホールが一番大きく、昼食を提供するのはこのみである。私はここを第一希望にしたが外れてしまった。

McCormick Hall

私が配属された寮である。唯一の女子寮で、ホテルのような外見である。ダイニングホールは最もヘルシーで、使う人のマナーも最も良いと感じた。部屋はオートロック式で、シャワーなどは毎日清掃が入る。

Baker House

スポーツ好きの人が多く、ジムの設備が最も充実しているように感じた。ダイニングホールを持つが規模はあまり大きくない。

Burton-Conner House

ダンスサークルの練習場所として使用したことがあるが、あまり詳しくは知らない。ダイニングホールはない。

MacGregor House

こちらもダンスサークルの練習場所やグループワークのミーティング場所として使用したことはあるが、詳しくは知らない。ダイニングホーリはない。

Next House

MIT のメインキャンパスから遠いが、この寮を好んで住む学生に多く出会った。学生同士の垣根が低いようで、ドアは基本的に開け放しにして友人が訪問しやすいようにしている人が多数であった。ここのダイニングホールを好む人も多い。

Simmons Hall

学生寮群から離れたところにあり、MIT のメインキャンパスからも遠い。窓がとても多く、2 人部屋に住んでいた友人は部屋の中に窓が 4 箇所あったと言っていた。ここのダイニングホールを好む人も多い。

Next House

学生寮群から離れたところにあるが、MIT のメインキャンパスから近く、地下鉄からも近い。学生の自治寮で、ダイニングホールはない。一風変わった学生が住む印象で、廊下一面に学生の手書きの絵が書かれていたり、煙草”等”を吸う人が多かたりと衝撃を受けることが多いが、学生同士の仲はよく楽しげな印象を受けた。誰でも参加できる大規模なパーティが頻繁に行われていた。

留学中

・授業

3.034 Organic and Biomaterials Chemistry (12units)

3.04 Problems in Materials Science and Engineering (12units)

3.053 Molecular, Cellular, and Tissue Biomechanics (12units)

3.903 Seminar in Polymers and Soft Matter (2units)

私は上記の 4 つの授業を受講した。授業数としては現地の学生の平均より若干少ないと思われるが、それでも学校生活に慣れると同時に、英語で発展的な授業についていくのは大変であった。学科は番号で言うのが一般的であり、私は course 3 (Materials Science and Engineering)であった。授業の最初の数字は course 番号を示している。当初は多学科の授業を受けようかと考えたが、最初の生活面でも慌ただしい時期に全く知らない内容を勉強し始めるのは予想以上に労力を要したので断念した。12 units とは、一週間のうちに 12 時間をこの授業に費やすことが求められるという意味である。しかしもちろん、実際に費やす時間は授業の性質や課題の難しさ、個人の能力、回答の質の程度にも左右される。授業中は学

生が頻繁かつ自主的に質問しており、疑問はその都度解消できる。他の学生が呈した疑問を聞くことで自分が持っていなかった観点を取り入れることができ、良い刺激となった。

3.04 は Undergraduate Research Opportunities Program (UROP) という、学部生が研究を体験することができるプログラムである。私は Cullen Buie 教授の研究室にて、ポストドクの研究の手伝いをするという形で実験をさせていただいた。MIT の学生の研究に対する姿勢や安全への意識、教授と学生の距離感など、様々な点において日本との違いを感じることができ、留学ならではの貴重な経験をする事ができた。

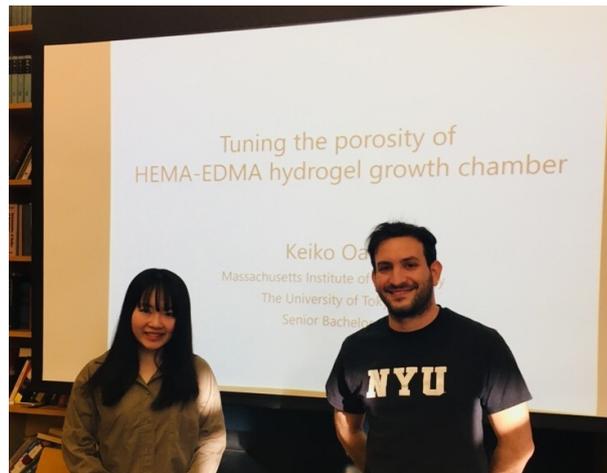


Fig. 2 Final presentation of UROP

・食事

初回授業や midterm の直前のまとめ授業などに教授が free food を用意してくれることが多く、とても驚いた。Semester の始めには、様々なサークルが新生生を呼びこむために free food を多く提供していた。他にも、学内で頻繁に行われるセミナーや企業説明などの場には、必ずと言っていいほど free food が用意されていた。その他にも、International student office という事務課が、アメリカ以外の国から来た生徒に free food を提供しつつ、thanks giving などのアメリカ特有のイベントを体験する会や交流会などを開いてくれることが多くあった。それらの内容は、ピザやクッキー、ケーキ、水、コーヒーなどが多かった。

私は McCormick Hall に住んでいたが、meal plan といって、semester が始まる前に semester 中の寮食をまとめて購入しておく必要があった。私のプランは every 19 と言って、1semester 分すべての平日は 3 食、土日はランチと夕食の 2 食がついているプランを事前購入した。しかしこのプランは一食ずつ現地で購入する場合と比べてそれほど安くなるわけではなかった。また前述のような free food が提供される機会がとても多く、またその他にも友達と食べに出かけたり、忙しさなどにより食事を抜いたりすることも多い。したがって、meal plan の購入が義務である寮に住むことになった場合以外は、購入するメリットはそれほど大きくはないのではないかと私は思った。

・課外活動（サークル）

私は MIT から東大に交換留学で来ていた友達に誘われ、Asian Dance Team (ADT) というダンスサークルに所属した。MIT でのサークルは日本とは異なり、semester 毎にそのサークルへの参加・不参加を決められるようである。サークルに所属することで確かに日々の生活が忙しくはなるが、勉強の良い息抜きになり、また多くの友達を作る機会にもなったので、大変満足している。



Fig. 3 ADT 有志によるダンスカバー

最後に

素直な感想として、私は留学に大変満足しているし、留学を決意した過去の自分自身に大変感謝している。この交換留学によって、様々な点において日本と MIT との差異を知ることができたし、日本にとどまらない広い視野を身につけることができたように思う。特に、外国にて現地の学生と共に長期間にわたって授業を受け、帰国後も現地で勉学に励んでいる友達と連絡を取り合うことは、世界に意識を向けるための良い要因であると思う。もし留学をするかどうか迷っている学生がこれを読んでいるならば、私はとりあえず申し込んでみることを強くお勧めする。申請書を書く過程だけでも内省を促され、意識を学外に向ける良い成長機会であったと思う。東京大学で4年間を過ごす学生生活も良いと思うが、少しの期間を学外での挑戦に充てる学生生活も面白い。4ヶ月という期間は、新たな環境に身を投じて楽しみ抜くために過不足ない期間であるように思うし、もし失敗してしまっても悪影響が出ない程度に短い期間であるように思われる。私にとっては今回の留学は貴重な経験であり、今回得た経験と学びを活かして今後の人生を豊かにしていきたいと感じている。